

三菱UFJ ライフ・バランスファンド(成長型)

月次レポート

2020年
12月30日現在

追加型投信／内外／資産複合

■基準価額および純資産総額の推移



- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。
- ・信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。
- ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- ・ベンチマークは、NOMURA-BPI<総合>(国内債券投資収益指数)32%、TOPIX(東証株価指数)35%、FTSE世界国債インデックス(除く日本・円ベース)10%、MSCI KOKUSAIインデックス(円換算ベース)20%、無担保コール翌日物レート(短資協会発表)の平均値3%を合成したインデックスです。
- ・詳しくは、後記の「本資料で使用している指数について」をご覧ください。
- ・ベンチマークは、設定日前営業日を10,000として指数化しています。

■騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	1.6%	5.0%	10.6%	8.9%	13.3%	50.9%
ベンチマーク	1.6%	6.1%	9.4%	4.7%	6.5%	69.8%

- ・実際のファンドでは、課税条件によってお客さまごとの騰落率は異なります。
- ・また、換金時の費用・税金等は考慮していません。
- ・設定来のファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しています。
- ・分配金実績がある場合は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

■組入上位10カ国・地域

国・地域	比率
1 日本	64.5%
2 アメリカ	17.7%
3 フランス	1.9%
4 イタリア	1.7%
5 オランダ	1.2%
6 ドイツ	1.1%
7 イギリス	1.1%
8 スペイン	1.1%
9 オーストラリア	0.7%
10 カナダ	0.7%

■組入上位10通貨

通貨	比率
1 日本円	69.4%
2 米ドル	18.4%
3 ユーロ	7.4%
4 英ポンド	1.2%
5 豪ドル	0.9%
6 カナダドル	0.7%
7 香港ドル	0.4%
8 メキシコペソ	0.3%
9 スイスフラン	0.3%
10 スウェーデンクローナ	0.3%

・為替予約等を含めた実質的な比率です。

■基準価額および純資産総額

基準価額(1万口当たり)	11,748円
前月末比	+181円
純資産総額	1.06億円

■分配金実績(1万口当たり、税引前)

決算期	決算日	分配金
第41期	2020/08/07	0円
第40期	2020/02/07	450円
第39期	2019/08/07	100円
第38期	2019/02/07	0円
第37期	2018/08/07	100円
第36期	2018/02/07	300円
設定来累計		2,700円

- ・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

■資産構成

	基本 資産配分	比率
国内株式	35.0%	35.0%
国内債券	32.0%	29.6%
外国株式	20.0%	20.1%
外国債券	10.0%	10.1%
コールローン他	3.0%	5.3%

- ・REITの組み入れがある場合、REITは株式に含めて表示しています。

■当月の基準価額の変動要因(概算)

	寄与度(円)
国内株式	93
国内債券	2
外国株式	89
外国債券	12
信託報酬等	-15
分配金	-
基準価額	181

- ・基準価額に与えた影響等をご理解いただくために簡便的に計算した概算値であり、その正確性、完全性を保証するものではありません。(各資産の変動要因は、投資対象とするマザーファンドの値動き等より算出。)

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。・コールローン他は未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

■運用担当者コメント
【市況動向】
(株式市況)

外国株式市況は、新型コロナウイルスワクチンの実用化や米連邦準備制度理事会(FRB)、欧州中央銀行(ECB)における緩和姿勢の継続や追加緩和の決定、米国の追加景気対策の合意などから上昇しました。国内株式市況も同様の理由などから上昇しました。

(債券市況)

外国債券の利回りは、まちまちの動きとなりました。米国では、新型コロナウイルスワクチンの実用化や、追加景気対策の合意などから上昇しました。欧州では、ECBの追加緩和決定、英国と欧州連合(EU)の通商協議の動向、新型コロナウイルスワクチンの接種開始や新型コロナウイルス変異種の出現などに左右され、もみ合いました。国内債券の利回りは、ほぼ横ばいとなりました。

(為替)

為替市場では、米ドルは、FRBによる金融緩和継続姿勢の長期化観測などから、円などの主要国通貨に対して下落しました。ユーロは、新型コロナウイルスワクチンの実用化によるリスク選好度の高まりや、英国とEUの自由貿易協定(FTA)合意などを受け、円に対して上昇しました。

【運用状況】

基準価額は、「三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド」が上昇したことなどから、上昇しました。ベンチマークとの比較では、「三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド」がアンダーパフォームしたことなどから下回りました。

【今後の運用方針】

米国経済は、新型コロナウイルスのワクチン普及への期待や追加景気対策が下支えとなり、景気回復は続く想定です。ただし、感染再拡大に伴う経済活動制限の長期化から回復ペースが鈍化する可能性には留意が必要です。

欧州経済は、新型コロナウイルスの感染再拡大に伴い経済活動制限が再度強化されているものの、ワクチンの実用化への期待やECBの緩和的な金融政策と追加景気対策が下支えとなり、景気は徐々に回復する見込みです。

国内経済は、中国や米国向けを中心に外需は堅調に推移しており、景気は緩やかに回復する見込みです。また、政府や日銀による景気対策・資金繰り支援策が景気を下支えする想定です。

このような景気認識のもと、当初各資産の相対的魅力度を比較した結果、国内株式、外国債券をオーバーウエイト、外国株式をニュートラル、国内債券をアンダーウエイトとします。

・三菱UFJ信託銀行の資料に基づき作成しています。
・市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

三菱UFJ ライフ・バランスファンド(成長型)

月次レポート

追加型投信／内外／資産複合

 2020年
12月30日現在

翌月の資産配分計画

	安定型	安定成長型	成長型	積極型
国内株式	21.0%	31.0%	36.0%	41.0%
国内債券	55.0%	40.0%	30.0%	25.0%
外国株式	10.0%	15.0%	20.0%	25.0%
外国債券	11.0%	11.0%	11.0%	6.0%
コールローン他	3.0%	3.0%	3.0%	3.0%

参考：基本資産配分

	安定型	安定成長型	成長型	積極型
国内株式	20.0%	30.0%	35.0%	40.0%
国内債券	57.0%	42.0%	32.0%	27.0%
外国株式	10.0%	15.0%	20.0%	25.0%
外国債券	10.0%	10.0%	10.0%	5.0%
コールローン他	3.0%	3.0%	3.0%	3.0%

三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド [ベンチマーク:TOPIX(東証株価指数)]

今月の国内株式市況は、新型コロナウイルスワクチン実用化による景気回復期待や米国における追加経済対策の成立などを背景に上昇しました。

上旬から中旬にかけては、新型コロナウイルスの新規感染者数が国内外で増加し、国内においては政府の観光需要喚起策の一時停止が決定されるなど経済活動の先行きに対する懸念が広がったものの、ワクチンの実用化に対する期待の高まりなどを受けて上昇しました。下旬は英国などにおける新型コロナウイルスの変異種拡大を受け下落する局面もありましたが、英国と欧州連合(EU)の通商合意や米国における追加経済対策の成立などを受けて上昇し、年初来高値を更新する展開となりました。月間を通してみると、東証株価指数(TOPIX)は前月末の水準を上回って取引を終えました。

今月のファンド騰落率は、ベンチマークであるTOPIXを下回る結果となりました。業種配分効果については、非鉄金属、ゴム製品などがプラスに寄与、サービス業、情報・通信業などがマイナスに影響しました。銘柄選択効果については、JTOWER、マネックスグループなどがプラスに寄与、プロレド・パートナーズ、SGホールディングスなどがマイナスに影響しました。今月の売買では、業績期待が高くかつ割安感のある銘柄へスイッチする方針の下、新規投資を含めて日本製鉄、伊藤忠商事などの組入比率を引き上げました。

当面の国内株式市況については、欧米で新型コロナウイルスの感染が再拡大している状況ではあるものの、ワクチンの接種が各国で始まったことなどを背景に経済正常化を見据えた底堅い動きになると考えています。

このような認識を踏まえ、当ファンドの運用コンセプトとしているボトムアップによる銘柄選択効果をさらに追求すべく、リサーチに基づく企業分析に注力し、成長性とバリュエーションを考慮した銘柄選択を行っていく方針です。(運用担当者:友利)

三菱UFJ 海外株式アクティブマザーファンド [ベンチマーク:MSCI KOKUSAIインデックス(円換算ベース)]

海外株式市況は上昇しました。

米国や英国などにおいて新型コロナウイルスワクチンの接種が開始されたことに伴い、本格的な経済正常化への期待が高まったことや、各国中央銀行の緩和的な姿勢が再確認されたことなどをうけ、株価は上昇しました。

外国為替市況については、円に対して米ドルは下落(円高)した一方、ユーロは上昇(円安)しました。

2021年1月は新型コロナウイルスの感染拡大とワクチンのさらなる認可や接種状況などが注目されます。

投資方針は、引き続き個別銘柄選択では、株価に割安感があり、独自の成長テーマを持った銘柄に注目しています。投資国配分については、北米、欧州、アジア・オセアニアともにニュートラルとします。(運用担当者:西)

・市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

三菱UFJ ライフ・バランスファンド(成長型)

月次レポート

2020年
12月30日現在

追加型投信／内外／資産複合

三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド [ベンチマーク:NOMURA-BPI<総合> (国内債券投資収益指数)]

12月の国内金利は概ね横ばいとなりました。国内金利は、海外金利を睨んで狭いレンジ内でもみ合い推移となり、月末の10年国債利回りは0.02%近辺となっています。また、事業債の国債とのスプレッド(利回り格差)は小幅の縮小となりました。実際の運用においては、ファンド全体のデュレーションはベンチマーク対比中立を維持しました。また、一般債については事業債および円建外債を中心にベンチマーク対比多めの保有を維持しました。

新型コロナウイルス感染症の影響などから、本邦景気は引き続き厳しい状態にあります。海外経済の持ち直しから輸出や生産は増加しているものの、設備投資は減少傾向にあります。個人消費も減少しており、わが国経済は当面厳しい状態が続くものと思われます。国内金利は、世界景気の先行きに対する不透明感が強いものの、財政拡大懸念が残る中、当面もみ合い推移になるものと思われます。国内事業債のスプレッドについては日銀の社債買入オペなどを背景に横ばい圏での推移になるものと思われます。

以上の見通しの下、デュレーションは当面ベンチマーク対比中立を基本にリスク度合いを調整し、国債以外の一般債は事業債および円建外債を中心にベンチマーク対比多めの保有を維持する方針です。(運用担当者:大沼)

三菱UFJ 海外債券アクティブマザーファンド [ベンチマーク:FTSE世界国債インデックス(除く日本・円ベース)]

【市況動向】

<債券>

当月の米独長期金利は上昇しました。米国追加経済対策の協議が進展するとの期待感から米独長期金利は上昇して始まり、その後、ドイツ長期金利は英国の欧州連合(EU)離脱交渉の決裂懸念などから、低下する局面もありましたが、米国追加経済対策法案の成立や英国とEUの通商交渉の合意成立などを受けて投資家のリスクセンチメントが改善したことなどから、月を通じてみると米独長期金利は上昇しました。

<為替>

為替市場では、米ドルは対円で下落した一方、ユーロは対円で上昇しました。上記投資家のリスクセンチメントの改善などを背景に、米ドルは対円で下落した一方、ユーロは対円で上昇しました。

【運用状況】

投資行動としては、債券デュレーションは米国をベンチマーク比長め、欧州を同中立で維持しました。欧州圏の国別投資方針は、スペイン・イタリアをベンチマーク比多め、ドイツ・フランスを同少なめで維持しました。カントリーアロケーション(通貨配分)は、米ドルをベンチマーク比少なめ、豪ドル・メキシコペソを同多めで維持し、ユーロを同少なめから中立に、シンガポールドルを同多めから中立に、ノルウェークローネを同中立から多めに変更しました。

【今後の運用方針】

当面の長期金利は、米国ではもみ合う展開、欧州では低位で推移する展開が想定されます。米国では、新型コロナウイルスのワクチンの普及や追加経済対策などによる景気の下支えなどにより、経済活動は徐々に正常化へと向かうことが予想されます。一方、米連邦公開市場委員会(FOMC)では、少なくとも2023年末までのゼロ金利政策維持が示唆されるとともに、雇用とインフレの目標達成に向けて一段と顕著な進展が見られるまでは国債などの資産購入を継続することが表明されるなど、今後も緩和的な金融政策が維持される見込みです。欧州では、新型コロナウイルスの感染再拡大を背景とした、行動制限策の強化に伴う景気下押し懸念は一段と強まり、インフレ圧力の抑制された状況が継続すると見えています。欧州中央銀行(ECB)は域内景気回復の本格化が期待されるまで、現在の緩和的な金融政策を継続する姿勢を示しており、債券市場では良好な需給環境が見込まれます。こうした見通しの下、債券デュレーションは現行の方針を基本に機動的に調整します。通貨配分では、必要に応じて現行比率の調整を行います。(運用担当者:船津)

・市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

■本資料で使用する指数について

- ・TOPIX(東証株価指数)とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- ・MSCI KOKUSAIインデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。MSCI KOKUSAIインデックス(円換算ベース)は、MSCI KOKUSAIインデックス(米ドルベース)をもとに、委託会社が計算したものです。また、MSCI KOKUSAIインデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
- ・NOMURA-BPI<総合>(国内債券投資収益指数)とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- ・FTSE世界国債インデックス(除く日本・円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数のデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

三菱UFJ ライフ・バランスファンド(成長型)

追加型投信／内外／資産複合

ファンドの目的・特色

■ファンドの目的

国内債券、国内株式、外国債券および外国株式を実質的な主要投資対象とし、それぞれの基本ポートフォリオに沿った資産配分を行うことにより、長期的に安定した収益の獲得をめざします。

■ファンドの特色

特色1 内外の主要金融資産に分散投資を行います。

また、ポートフォリオの資産配分比率は、原則一定を維持します。

・国内債券、国内株式、外国債券および外国株式への分散投資により、リスクの低減を図り、長期的に安定した収益の獲得をめざします。
 ファンドの実質的な運用は、「三菱UFJ 国内債券アクティブマザーファンド」、「三菱UFJ 国内株式アクティブマザーファンド」、「三菱UFJ 海外債券アクティブマザーファンド」、「三菱UFJ 海外株式アクティブマザーファンド」を通じて行います。

特色2 ライフプランにあわせて4つのファンドからご選択いただけます。

4つのファンドから資金性格、投資目的等に応じた選択が可能です。

三菱UFJ ライフ・バランスファンド(安定型)

三菱UFJ ライフ・バランスファンド(安定成長型)

三菱UFJ ライフ・バランスファンド(成長型)

三菱UFJ ライフ・バランスファンド(積極型)

・「成長型」は、国内債券32%、国内株式35%、外国債券10%、外国株式20%および短期金融商品3%の比率で配分した基本ポートフォリオとします。

・実質的な組入外貨建資産については原則として為替ヘッジを行わないため、為替相場の変動による影響を受けます。

特色3 各ファンドは無手数料でスイッチング(乗換)が可能です。

ただし、スイッチングの際は、換金するファンドに対して税金がかかります。

特色4 国内債券、国内株式、外国債券および外国株式に投資するそれぞれのマザーファンドを設定し、その運用にはベンチマークを定め、アクティブ運用により、これを上回る収益を追求します。

・個別資産毎におけるアクティブ運用を行い、委託会社が独自に指数化する合成インデックスをベンチマークとして超過収益を積み上げることを図ります。

特色5 各ベビーファンドでの資産配分にあたりましては、三菱UFJ信託銀行株式会社からの投資助言を受けます。

■ファンドの仕組み

・運用は主に各マザーファンドへの投資を通じて、内外の株式・債券へ実質的に投資するファミリーファンド方式により行います。

■分配方針

・年2回の決算時(2・8月の各7日(休業日の場合は翌営業日))に分配を行います。

・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。

・分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

三菱UFJ ライフ・バランスファンド(成長型)

追加型投信／内外／資産複合

投資リスク

■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

価格変動リスク	一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動し、また、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、ファンドはその影響を受け組入株式や組入公社債の価格の下落は基準価額の下落要因となります。
為替変動リスク	組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替変動の影響を大きく受けます。
信用リスク	組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。
流動性リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

■その他の留意点

- ・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- ・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。
- 投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- 収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。
- ・ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響する場合があります。

手続・手数料等

■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位(ただし、1万口を上回らないものとします。)/販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。
信託期間	無期限(2000年2月8日設定)
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰上げて償還となる場合があります。
決算日	毎年2・8月の7日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年2回の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

三菱UFJ ライフ・バランスファンド(成長型)

追加型投信／内外／資産複合

手続・手数料等

■ファンドの費用

お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料 購入価額に対して、**上限2.2%(税抜 2%)**(販売会社が定めます)
(購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)

信託財産留保額 ありません。

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	三菱UFJ ライフ・バランスファンド(安定型) 日々の純資産総額に対して、 年率1.43%(税抜 年率1.3%) をかけた額
	三菱UFJ ライフ・バランスファンド(安定成長型) 日々の純資産総額に対して、 年率1.54%(税抜 年率1.4%) をかけた額
	三菱UFJ ライフ・バランスファンド(成長型) 日々の純資産総額に対して、 年率1.65%(税抜 年率1.5%) をかけた額
	三菱UFJ ライフ・バランスファンド(積極型) 日々の純資産総額に対して、 年率1.76%(税抜 年率1.6%) をかけた額
その他の費用・ 手数料	監査法人に支払われるファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についてもファンドが負担します。 ※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。
なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

本資料のご利用にあたっての注意事項等

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。●本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

●委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会: 一般社団法人 投資信託協会
一般社団法人 日本投資顧問業協会

<ホームページアドレス> <https://www.am.mufg.jp/>
<お客さま専用フリーダイヤル> 0120-151034
(受付時間 営業日の9:00~17:00)

●受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

販売会社情報一覧表

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は下記の販売会社まで

ファンド名称:三菱UFJ ライフ・バランスファンド(成長型)

商号	登録番号等		日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
株式会社鹿児島銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第2号	○			
九州FG証券株式会社	金融商品取引業者	九州財務局長(金商)第18号	○			
株式会社第四銀行(※)(1月1日から「株式会社第四北越銀行」に社名変更いたします)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第47号	○		○	
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第33号	○	○	○	
株式会社山形銀行(※)	登録金融機関	東北財務局長(登金)第12号	○			